

言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
アジア研究・対アジア関係に関する分科会（第24期・第2回）議事要旨

開催日時：2018年5月13日（日）10時00分～12時00分

会場：東京大学本郷キャンパス法文2号館文学部第三会議室

出席者：久保亨、川島真、栗屋利江、井手誠之輔、貴志俊彦、君島和彦、小浜正子、坂井俊樹、斎藤明、高見澤磨、中野聡、芳賀満、水羽信男、桃木至朗、吉澤誠一郎

議事要旨

議題1：前回議事要旨の確認

日本学術会議事務局から伝えられた、議事要旨作成についての方針を確認した上で、前回の議事要旨を回覧の上、承認した。

議題2：委員及び幹事の補充について

久保委員長から小島毅連携会員の本分科会への参加が日本学術会議幹事会で承認されたことが報告された。また、下田正弘連携会員に本分科会への参加を求め、委員の追加を幹事会に申請することが決まった。幹事については、分野や地域のバランスを考慮し、斎藤明連携会員を選出した。

議題3：第24期分科会の審議計画について

久保委員長より、4月15日におこなわれた分科会幹事会での議論が紹介され、①ユネスコ世界遺産関係、②植民地責任・戦後アジア史、③若手研究者の海外留学支援が具体的な候補としてあげられた。①について久保委員長、③について川島副委員長から紹介がなされ、質疑応答の上、今年度の審議内容とすることを決定した。次回の委員会では、①について審議をおこなう。また②についてはペンディングとして、次回の委員会で栗田幹事からあらためて提案し、審議する。

このほか、④として昨年度の本分科会がおこなった提言を踏まえ、新たなデジタル化時代に対応するための諸課題、具体的には世界標準形成への関与や日本国内の図書館のあり方について審議していくことが提案され、議論の上、本分科会の今年度の審議内容とすることと決定した。

議題4：アジア研究関係大型データベースの作成と利用について

昨年度本分科会が作成した提言のフォローアップとして、下田正弘連携会員を招き、「デジタル化時代の人文学の学術インフラについてーアジアの視点から」と題した報告がおこなわれた。そこでは、昨年度公表した提言に欠けていた視点、とりわけ学術インフラを形成する場に研究分野として関与し、標準形成にコミットすることの大切さや、CADAL導入の経緯とそこでの課題、そして新たなデジタル化時代における日本の図書館制度のもつ問題点などが紹介された。参加している各委員との間できわめて活発な意見交換がなされ、本分科会の今年度の審議内容の一部として本報告であげられた課題を取り入れていくことになった。

そのほか：

・2018年12月15日（土）に東京大学文学部で開催される、東洋学・アジア研究連絡協議会主催のシンポジウムに、本分科会は共催者として関わる。今年度は本分科会から報告者として川島副委員長等が参加する。

次回は2018年9月14日（金）午後開催予定。